昭和十八年六月

北大騎乘會誌

創刊号

北大騎乗會々則

第一條　本會ハ北大騎乗會ト稱シ旧北大乗馬會（以下乗馬會ト略稱）北海道帝国大學旧文武會馬術部（以下馬術部ト略稱）並ビニ同學報國會防訓練部騎道班（以下騎道班ト略稱）ノ有資ノ全員ヲ以テ組織ス

第二條　本會ハ騎道ヲ通シテ會員相互ノ親睦ヲ圖ルト共ニ各員ヲシテ為事報國ノ精神ヲ高揚セシムルヲ以テ目的トス

第三條　本會ニ會長一名　幹事　顧問各若干名ヲ置ク

第四條　會長ハ騎道班長之ニ當リ　幹事會ヲ總理シテ會務ヲ処断ス

第五條　幹事ハ在札會員中ヨリ會長之ヲ委任シ庶務會計其ノ他會務ヲ分担処理ス

幹事ノ任期ハ一ヶ年トス　但シ重任ヲ妨ゲズ

第六條　顧問ハ元馬術部長　元騎道班長ノ他乗馬會馬術部及ビ騎道班ニ特別ノ功勞縁故アル向ニ対シ會長之ヲ委嘱シ本會ノ事業遂行ニ関シ随時ノ意見ヲ仰グ

第七條　本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一　乗馬演習　乗馬ノ他ノ騎道練成ニ行フ

二　騎道班ノ後援並ビニ現班員ト本会地方会員トノ連絡

三　少クトモ一年一回會報ノ發行配布

四　ソノ他本會ノ目的達成ニ適切ト認メラレル事業

第八條　本會運用ニ関スル経費ハ主トシテ寄附金ヲ以テ之ニ當テ特ニ一般會員モリ會費ハ徴集セズ

第九條　本會ノ資産ハ幹事之ヲ保管シ會長之ヲ監督ス

第十條　本會ノ事務年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月五十一日ヲ以テ終ル

附則

一　本會ハ設立ヲ以テ札幌OB乘馬倶樂部ヲ解散シ同倶樂部ノ事業會務

二　本會計ハ一切ハ本會之ヲ継承ス

本會則ハ昭和十八年二月六日ヨリ之ヲ実施ス

會報創刊ニ際シテ

太秦康光

北大乘馬會　馬術部並ビニ騎道班出身ノ各位ニハ決戰下愈々御健勝ニテ軍務ニ或ハ職域ニ御勵精ノコト大慶ニ存ジマス。コノ度我々ハ從來ノ所謂OB會ヲ再組織ヲ行ヒ、北大騎乘會ト言フ名ノトニ此所ニ會報第一号ヲ發行スル段取リトナリマシタカラ何分宜敷御願致シマス　單ナル形式的ノ御挨拶ハ止メテ本會設立ノ意味ヲ簡單ニ御附説明致シ了解ヲ得度ク存ジマス。

札幌御OB乘馬倶樂部トイフ名稱ハ敵性ノ言葉ヲ含マレ、又札幌ト言ヒモ實際ニハ北大関係者ガケノ集リナル故之ヲ簡明ニ北大騎乘會トシタ。

二、昭和十六年二月旧文武會ハ發展的解消ヲ行ヒ、學生ノ修練組織ガ一変シ馬術部ハ国防訓練部騎道班トナリ結果、學内馬術部ハ結果學内馬術部並ビ騎道班ト関係ガ持テルガ班附ト言フ名儀デ班員トガ直接交渉ヲモツコトハ許サレナクナツタ。

又新制度デハ配馬將校以外顧問トイフモノガナクナリ田舎出身者ト形式上御縁ガナクナリ、之等ニトハ我々トシテハ何トカ終ヲ飾ル方面ニ持ッテ行ク意ヲ持ッテ本會ヲ盛ニ今後ハ騎道班ハ現況ヤドモ本會報ヲ通ジテ地方ノ先輩各位ニ御知ラスルツモリデアリマス。

三、會ノ行事ハ何トイフテモ札幌ノ會員ヲ主トスルコトガ多イノデ、誤解ヲ避ケル為一般カラノ會費トイフモノヲ徴集シナイコトニシタ。當分ハ何トカヤツテ行ケル心算デアル。

本會ハ大体コノ様ニ考ヘテ居ルモノデ、各位ニハ決シテ迷惑ヲ掛ケマセヌ。

神的ノ御支援ヲ御願ヒ致シマス。

札幌ニ生活ヲ営ム我々ハ多ク小兵馬術部騎道班ニ關係シタ時ヲ想ヒ出シ、ガキ、コトニ感動ヲ覚ヘルト共ニ過ギシイ日ノ第一ヲ思ヒ出サレルノデアリマス。

本會報ハ重要ニガ何ト言フ名稱ニ迷ヒ、兄ガ精ニ悩ンダ。

馬ト環境

松本久喜

生物ハ人ノ環境トハ離スベカラザル関係ニアルコトハ言ヲ俟タヌガ、微生物カラ大動物ニ至ル迄ニ環境ノ影響ハ大ニ色ト変ルベキデアル。

吾々ノ環境ヲ観察スルト、乾燥ガ色高ニ接シテヰル者ガ家畜ノ能力ガ優秀デアルト言フコトニナル。

環境ノ重大ナル素因ハ人間ノ頭デアル。

野生ノ動物ハ環境ニ全ク適応シタ生活ヲ営ミ、彼等ノ本能ニヨリ完ニ巧ニ自然ヲ利用シ居ルガ、馴化サレタ家畜ガ人間ノ膝下デ改良セラレルト、ソノ種先ト思ハレル野生動物ニ比較シテ、習性能力体型的特徴ガ全ク別ノ種属ト思ハレル位変ツテ来タノデアルガ、同時ニ自力デハ生活ヲ営ミ得ナイ位所謂本能モ変ツテ来テヰル。即チ人間ニ依リ改良サレタ彼等ハ人間ナクシテハ生活出来ナイノデアッテ、家畜ト人間トハ全ク相互的関係ニアルト謂ヘル。

先ヅ馬デアルガ、馬ニ蒙古馬カラサラブレッドニ到ル迄、今日改良種ト稱サレル馬種ハ実ニ多ク、各種ニヨリ特徴アル体型能力ヲ有シテヰルガ、ソレ等ノ品種ト環境ヲ考ヘテ見ルト蒙古馬ハ餘ノ草モナイ草原ニ年中放牧セラレ、彼等ノ子孫ハ狼群ト闘ヒ、彼等ノ子孫ヲ生ンデ全ク人力ヲ要シナイノデ抵抗性モナクアルガ、改良サレタ品種デハ殺伐ナ亦闘争心モナイノデ動ル自然的環境デハ生活ヲ営ミ得ナイコトニナル。

所ガサラブレッドヲ完全ニ近イ程発育トナセ様トスルト、ソノ発育過程ニ於ケル管理者ノ苦労ト謂フモノハ並大抵デナイ。

ソノ生ノ苦ナテカラ競馬場ニ於テ華々シク走ル迄ノ育成ト競馬訓練トハ実ニ涙グマシイモノガアル。

ソノ眞ノ目的デアル日本改良馬ノ原種ノ選擇法トシテ行ハレ所謂金持ノ変ナ好奇心カラ馬ヲ育テ、又ハ七万五千円モデ一頭ノ馬ヲ買フコトガナイトスレバ、家畜特ニ馬ノ内デサラブレッド程完全ニ近イ育成ト鍛錬ガ行ハレテ

居ルモノハナイト謂ヘル。ソノ技術ニ敬意ヲ表スル次第デアル。ソノ育成ノ技術及ビ鍛錬ハナニヲ以テドウ対スル環境ノ素因デアッタカ。コレガ人為的環境デアリ、ソノ技術ノ如何ニ依テ何ニ四続ガ正シク優秀ナ両親ノ仔デアッテモ駄馬ニモ比スベキ馬ガ出来上ルコトハ同様デアル。

馬ニ乗ルコトハ人ノ身体ノ鍛錬デアルガ、吾々ノ様ニ家畜ニ接スルモノカラ見レバ一方ニ於テ馬ニ接シテ馬モ知リ、馬ノタメノ人為的環境ノ研究モ行ッテ怠シイモノデアル。自動車ヲ毎日運輸スル人ハ毎日ソノ機械ノ状態ヲ検査シ帰庫ハ次ノ日ノ出発ニ備ヘテ行ッテアラウン飛行機デハ飛ブ前精密ナ試験ト飛行後ノ検査モ翌日ノ飛行ノタメニ心ヲ行ハルテアラウガ、考ヘ様ニヨッテハ斯ル機械ヨリ更ニ精密ナル構造ヲ有スル生キタ馬ニ対スル観察ヲヨリ注意深ク行ハレテ怠シイモノデアル。ソノ主意カハ遂ニハ一ツノ技術トモナルノデアル。

ソノ技術ガ生物ニ対シテ知ラズ知ラズ的ニ環境ノ一ツニ数ヘ得ラレル様ニナル。又考ヘ様ニヨッテハ日本人全体ガ生ヲ生物ニ対スル管理技術ガ上達シタトスレバ、全体的ニ水準ガ高メラレテユクコトニナル。科学的技術ガ進歩シタトハ謂ヘ、ソレハ鋭角三角形ノ頂点ガ高イノデハ、ソノ国ノ科学技術ハ満足スベキモノデハナク、同ジ高サノ三角形デモ鈍角三角形デアリタイモノデアル。

馬バカリデナク家畜ニ対スル観念ガ今少シ一般的ニ高ク、ソレガ鈍角三角形ヲ形成スル様ニナルコトヲ心カラ願ハシイモノデアリ、家畜ニ対スル人為的環境ガ改善セラレルトスレバ北海道ノ家畜ノ量モ質モコクナル様ニ考ヘラレル。

札幌OBエイディング倶楽部は結成されてから数年間会員相互の親睦、馬術の後援、馬事思想の普及発展に動かれて来ましたものと、私の怠慢から貢献しては来ませんでした。在札者以外の先輩諸兄とは殆んど連絡がとれず従つてその運営は極めて消極的な範囲に帰よつて居りました。代々の主任特に深田光夫等は非常に熱心に先輩との連絡を希望されこの機関の完成を願つて居られ私も共にその実現を期してはいたのですが仲々実行に移せずに今日迄遷延して居りましたことは何とも申譯がない次第であります。

又學内団体の組織の変更と共に学生が直接先輩と連絡し、共に活動することが禁ぜられてしまいましたが、學生個々の人格陶冶の問題は別として、現在の様な状態の下にある騎道班にとつては未だ先輩諸兄の後援指導が必要であるやうに考へられ、尚一層この

半學道部

やうな機関の必要なことが痛感せられて居ります。

幸　此の度太秦騎道班長の御盡力によつて今迄の札幌OBエイディング倶楽部が時局柄従来の名稱を変へ、北大騎道乗馬会なる名稱の下に発展することになり、誠に嬉しい組織を以て、理想に向つて力強く歩を進める事になりました事は全く御同慶の至りで、祝意を表すると共に、御多忙中御盡力下さる太秦先生に対し厚く感謝する次第であります。

此の際の活動に當つて太秦會長から私に會計を扱ふやうにとの御命令でありますが、今迄私が會計をやつてゐた為に、OBの活動が充分に出来なかつた事を考へますと、これを御引受けすることは如何かと考へたのですけれども、若手の西松君が実際はやつて下さるといふので、私はお手傳として又出来得れば過去の嬉びにもとお引受け致しました。何卒諸兄の御鞭達を御願ひ申し上げます。

班の現況に就いて

騎道班主任　大戸　進

昨年九月本科五名実科三名の先輩を送りまして、林誠平さんの後をうけて私が就任致しました。宜しく御指導と御鞭達の程を御願ひ致します。

私の代になりましてからの班の状況を述べさせて戴きます。班員の数は現在本科九名予科二十三名で外に農学実科には数名独立した形な状態で存在してあります。

練習は毎日曜だけ北部第六十三部隊で一〇名　北部軍司令部で三名が許可されてゐるに過ぎず練習機関の不足に悩でゐる状態です。その為農実の方には実習の時間に学校で乗つて貰ふことにして軍馬の方は専ら本科と予科だけが乗つてゐる次第です。しかし合宿練習の方は北部第五部隊の絶大なる御好意により休暇毎に一週間づつやつて居ります。

さて昨年九月からの行事を簡単に記しますと九月十四日大雪山リンクで第五部隊で合宿練習十月二十五日には予科対弘高戦を旭川で開催二百余名の差で予科大勝す。十一月三日には東北帝大より挑戦状来る。旭川司團の秋季演習にて流れとなる。十一月二十三日本学より東北大に挑戦すれど東北都合悪く遂に本年は定期戦中止に決る。十二月二十三日より二週間北部第五部隊にて冬季合宿。一月十七日には昭和十八年度の練習始め。三月中旬合宿の予定は部隊の都合で中止。四月四日には陸大で開催された全国帝大馬術大会に出場大いに奮戦すれども決勝戦にて東大に敗る。

以上簡単に班の現況につき述べた次第であります。が六月中には東北帝大との定期戦を行ひたいと思つてゐます。

一同大に張り切つて居りますから、遠に御声援を御願ひ致します。

では先輩諸兄の御健康を御祈り致します。

（五月二十五日）

第六回全国帝国大學對抗
馬術競技大会記

大手英夫

帝大戦は四月四日陸大馬場にて行はれました。暑大で強風吹きすさび観覧席のテントも倒れる程でした。その中を在京の諸先輩が応援に来て下さり我等選手七名大いに張り切ったのでした。昨年以来の練習、札幌出発に際し岡田大佐殿より云はれた優勝はしなくてもよいがビリになるなと云ふ御言葉が試合中妙に頭にこびりついてゐました。

第一回戦と戦ひ大差で勝利を得ました。審査官の講評は共に馬産地の大學故馬の乗分を理解して乗つてゐる等。第二回戦は九大との戦にかつた阪大と行ひました。これは第一回戦以上の迫力の差、技倆の差で破ることが出来ました。選手一同優勝戦迄こぎつけた喜びに溢れ陸大の判任官食堂で腹ごしらへしました。慎重な作戦後、早目に食堂を出て準備運動を行ひ傍ら彼を知り己を知れば勝即ち殆から其の孫子の兵法に従い敵乗大選手の乗り方を観察しました。何しろ常の練習馬のこと故、難馬の癖をよく知つて居りそれに対する乗り方を心得てゐるので、吾々も短い時間にそれを見抜かうと目を四の様にして見守りました。

優勝戦、対東大との試合は我等存分の働きをしたと思つてゐます。敗れて悔なき戦をしました。選手の一人一人が自分の技倆を充分に発揮して敢闘しました。試合後の全般に対する講評に於て、我が北大は四合乗りで實に乗り方は悪いが一番迫力がある様な四字言葉をはれ、更にカウボーイ乗りとの言葉を載いて一同ニヤ〳〵してゐました。

君が代吹奏裡に優勝校東大主将の手で国旗降下、強風にはためき乍ら降りてくる日の丸を仰ぎ乍ら、来年こそはカウボーイ乗りに一段の洗練を加へてきつと我等の手で日の丸を降下してやるぞと誓つたのでした。

簡単ながら帝大戦の報告を終ります。

扱い会に現在の会計の状況を簡単に

此報告致します。先に諸兄の一部の方が卒業の折や他の機会に寄附されたもの、及びその他の臨時の収入の残金全部は、昭和十五年馬術部十年誌の発刊に際して出費してしまって、その後は会としての所有がなくなりました。OB名目での諸行事にはその必要の都度在札の者が負担して居りました。又物品も乗鞍一背一式備品を会で所有して居りましたが、先年騎道班に無償で保管転換致しましたので全然財産を持ってない状態に在りましたが、昨年太秦先生から此世堂の此迸去に際し、騎道班の後援の為に金壱百円也を此等附託きましたので、之は郵便貯金として保管して居ります。これからはこの金子を基にして活動を開始することになりました。太秦会長の此考へに基いて今後暫くの間は全然金銭から会費を集める事はしないで、有志の寄附金を以て運営の資に充てる事に致しましたから切に諸兄の此協力を此願する次第であります。簡単ながら右此報告致し、諸兄の此健闘を祈りつゝ、擱筆致します。

旧OB乗馬倶楽部最近の様子

西村雅吉

今度北大騎乗会が出来新に旧OB乗馬倶楽部が生れ変って新発足することになりましたのは洵に喜ばしく思います。この時に当って旧札幌OBの最近の様子の一端を簡単に述べさせて戴きます。

畜産學科の馬に御厚意により日曜日には乘せて貰へることになつて居りなごやかな中にも心身の練成を圖り当時代の旺盛なる敢闘精神を忘れざる校訓の下に努めてゐます。

太秦会長　半澤　高　杉　山本先輩に私などがよく顔を見せますが、時には勇敢な失策をやり此の滋賀、月曜日には学校で話題になつてゐることも屢々です。

馬術だけの話ですが、

その馬の行先は殆ど決つて円山です。

円山神社右手から山に入り、綜合グラウンドの脇へ出、雑木林を通り抜け、神社左手の杉林の中の不整地を小川に沿つて遡て駈けぬけ、公園に出る道順が最もよくはれます。

又その帰途、太秦先生の手綱付手に冷いものをおもてなしに喉を潤すのも亦恒例の楽になつてしまつてゐます。

或は又俊足を利用して、会員の御家庭を日曜日の様子如何にと襲撃偵察に廻ることもあり、電撃されることもあります。

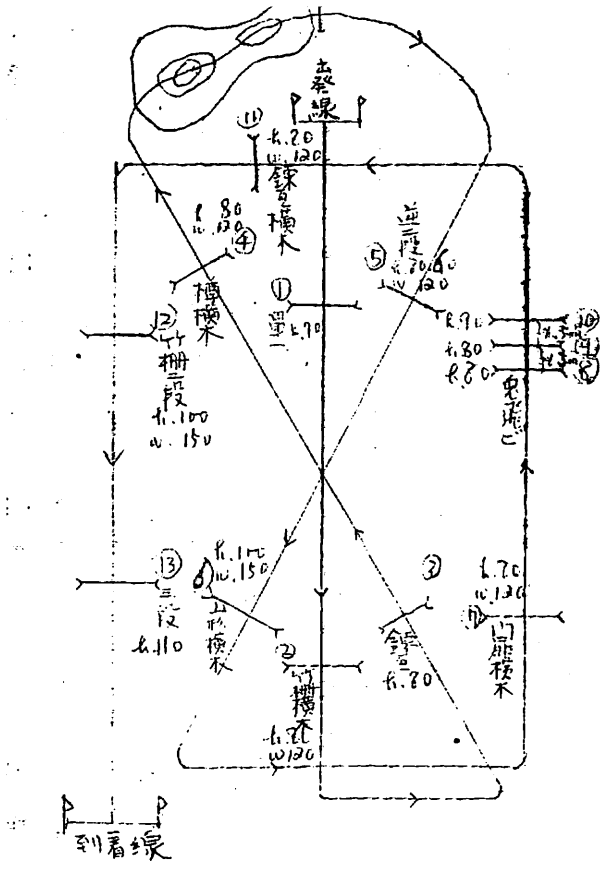
「札幌馬事協会」と云ふ会が一昨年頃は時々遠乘会を催し、石狩定山渓などへ一泊の遠乘を、或は遠く登別迄出かけ、そこの馬事訓練所の馬に乘ることなどの会にも〇乃会員が必ず参加してゐました。

各校には「馬スキークラブ」が主雄の馬スキー競技に参加し、常に優秀な活躍をしてゐます。

旭川で行はれる北海道騎乘大会には紳士團体対抗競技に優勝を逸しましたが、

昨年は太秦会長、山本、西村が出場し、道内諸豪と接戰を演じ幸ひにも優勝旗と優勝盃を獲得、帰札の後、札幌へ出張中の松平氏も交へ報告会を催し感激を新に致しました。

札幌乃乘馬倶楽部はまとして騎道班出身者を以て組織され謂はゞ騎道班と兄弟の関係にあるのであつて、陰に陽に騎道班の發展の為に努力してきたのでありますが、北大騎乘会となり、内容も充実し從來よりもより積極的に騎道班の兄分として力強い存在を今るであらうことを確信致します。


到着線
出発線
鉄棒横木
懸垂横木
平行棒
三段
梯子
鉄棒
鉄棒
鉄棒

工二一　羽島榮治

昨年九月私が予科の時に最も御世話になつた岡田小林山根福本の諸兄を送り出して以来、私も部班員の一名として騎道班の御陰を蒙り、而も会計幹事に任命されて乃ちの間に抱らずい数つも練習には出ます。班長先生にも主任の

天野さんにも何等連絡もとらず、全く申譯なき次第です。此の機会をかりて御詫び致します。

幸い今度の帝大戦に参加させて戴き今度こそは駑馬に鞭ちて全力を盡さうと覺悟を新にして居ります

現班員名簿

氏名	職業	住所
大淵進	農林3	北海道札幌市南九条西六丁目
平井敦	農化3	今
稲葉宏	工電3	今
福岡恵一	農化2	今
大手邦知	農農2	小樽市住之江町五ノ一
小林英泰	理化2	北海道札幌市南十条西八丁目塚田方
山村正	農畜1	今
羽島英夫	農農1	今
山崎榮	工土1	今
都治亨	工2	北海道札幌市北五条西十四丁目三上方
見敏治	農3	今
儀一	農2	今
之助	農3	今
宇林正	工1	今
林一	農3	南六条西二十三丁目
平澤正	農2	今
澤敏	農3	今
達志	農1	今
伊藤胖	農1	今
藤本人	農2	今
本栓弘	農3	今
岡本幹	農3	今
本昌雄	農2	今
田辺孝一雄	農1	今
今上		東京市大森区久原町六九七
今上		静岡県伊東町坂須美(六九七)
今上		小樽市富岡町二ノ五六(一二五四)
今上		秋田県平鹿郡三重村
今上		京都市
今上		浦和市
今上		小樽市岡澤町七丁目
今上		天津特別一区中街六〇
今上		網走町南二条東二丁目
今上		東京市杉並区天沼一ノ三〇
今上		函館市元町五
今上		滝川町材木通北一丁目

武川大紳久川李菊宮日	農	2	2
力勝西野保口城池崎塔	農	2	2
健邦誠一郎悟之次助郎	農	2	3
輝昭雄郎	農	2	3
	農	2	1
	医	2	2
	医	2	2
	工	2	1
	工	2	3

札幌市恵迪寮

〃

〃

〃 北十四条西二丁目竹湯寮

〃 南一条西二十四丁目野口方

〃 北五条西十一丁目

〃 恵迪寮

〃 北八条西四丁目若村方

〃 豊平河岸三六四（二四七九四）

〃 恵迪寮

横浜市中区井土ヶ谷中町一〇三

京都市上京区三宮町正面下ル

〃 上京区西洞院通一條上ル

石狩郡石狩町親船町

福井県丹生郡三方村三留四二一

〃 〃

神戸市須磨区山下町一一四六

旭川市四条十二丁目

大連市千歳町一〇

東京市目黒区大岡山二二二

北大騎乘會々員名簿

氏名		勤務先	住所
會長 鷲尾永太	現班長	北大教授 理学部生産研究室 医学部微生物学教室	札幌市大通り円山二丁目
高井泰一	初代部長	今	札幌市南一條西十一丁目
黒澤松康	第二代部長	今 農学部畜産学教室	札幌市北十一條西五丁目大學官舎
岡田正亮	第三代部長	陸軍大佐	札幌市北一條西二十二丁目
中村信助	旧北大乘馬会長	北大講師	札幌市円山南町五五
大虎元太郎	現副会長 旧北大乘馬会長	今	札幌市南七條西十七丁目
大塚治郎	現高班長 現予科班長 元北大講師	今	札幌市北十三條西四丁目
荒根貞善		北大本部庶務課	今 上
野寅次郎		北大予科助教授	
		満洲拓殖公社 住本期出張所	

氏名		勤務先	住所
平山常介	農業部科卒	北大教授	西宮市泉町四番地
中野友二郎	工機4	株式会社大阪鉄工所造機工作課	高田市大町二丁目
中谷勝紀	農農4	警視庁工高農農学校教諭	東京市杉並区清水町二六
眞鍋雅彦	工機5	海務院船舶部造機課	台北州宜蘭街坤内一八五
岩垣泰弘	農畜5	台湾宜蘭農林学校教諭	今 上
河崎三郎	農農6	福島県農事試験場	奉天市三経路九蒲路陸軍官舎四四、二
松本秋雄	農畜2	信達分場長	札幌市円山南町一四、五
時久善	農畜6	陸軍獣医大尉 北大助教授 高度学術室	

永武半岩東勝吉高森大福前山西小高桶松池小西菅
四郎男朝四郎帰道一郎一代基（伊達敏文）子郎郎郎

死	下條敦親	工業	農業	15	蒙古自治部中央学院
死	中尾和彦	工業	農業	15	入営中
死	石井義則	理化	農業	16	入営中
死	山本寛	工業	理化	16	入営中
	永澤誠	工業	農化	17	入営中
	半倉光夫	工業	工業	17	入営中
	小林正	理化	理化	17	陸軍部[illegible]
	福本逸夫	工業	農業	17	中尉
	小山彦	工業	工業	17	中尉
追加	入江郎	畢業	農業	10	陸軍少佐
死	富樫誠	佐官	農実	15	南洋興発株式会社
死	佐藤誠	佐官	農実	15	南洋興発株式会社
死	熊谷一	軍曹	農実	16	南洋興発株式会社
	木村清	軍曹	農実	15	北海道拓殖銀行
	谷口貞吉	軍曹	農実	12	北海道拓殖銀行
	間瀬善彦	軍曹	農実	17	北海道拓殖銀行

張家口市西大院十二号

関東軍

北部第九部隊

札幌市北十二條西四丁目花見方

北部第七部隊見習士官

北部第九部隊見習士官

静岡県上狩野村吉奈吉奈驛地麝農附

第六病棟二室

東京市豊島区陸軍輜重兵学校第三中隊第三班

山下出征学研究所内

東京市世田谷区下馬町一九九氏宮武

東京市豊島町巣鴨町

留学生

東京市世田谷区下代田町二八四

満州東安省密山県密山第洲第三九七部隊

蒙疆駐屯自治政府特業部局気付

察哈爾盟大僕寺右翼旗

東京東社研究所附

陸軍病院中支派遣班第一天三部隊六病棟

張家口大境門外同学院南寮

札幌 合上内

前田正義
安齋克吉郎
今右
農業試験場
農業
入営中
北部第六部隊
北大通東七丁目
伊崎隊
物故
澤田鶴松
九鬼誠之助
愛甲慶壽